

Boxersに代りてアギナルドに與ふ： 雜録

著者	以心生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	8 2
ページ	5 7 - 6 9
発行年	1900-10-30
その他の言語のタイトル	Boxersに代りてアギナルドに与う： 雜録
URL	http://hdl.handle.net/2298/5033

Boxers に代りてアギナルドに與ふ。

以心 生

燕京陷落後一句、夢に張得勝に逢つた。彼が其の時僕に何か書いたものを見せて、潜然として涙下るを見たが、余り可笑しいので翌朝記憶を辿つて書いたものがこゝまである。元より痴人の夢を語るの類で論するに足りない、僕もこゝまを單に夢かたりとして諸君の坐右に供するのであるが而し……………アーモ一云ふはい。

陰平窮冠非難型。如斯江山坐付人。

アギナルド君足下。

足下義兵を起して西班牙の暴虐を挫くや、東にキューバ人あり、又その羈絆を脱せんとし、東西相應じて正義の爲めに戦ふ。生燕山黃塵の裡にあり、竊に君が高節を憶ひ、常に寶刀に杖て遠征を賦せんとしたり。然れども數奇にして志蹉跎たり易く。憾を吞みて常に南溟の天を望みき。生聞く胎を刳きて天を殺せば麒麟其の郊に至らず。巢を覆し卵を破れば鳳凰其の邑に翔せず。類を傷ふものを惡むはこれ天下の常情なり。西班牙の虐政虎よりも猛く。類を傷ふ最も大なるものにして、天人の共に惡む所なりき。幸に足下のあるあり、この虐政に抗して正義の爲に盡し人道の爲めに勉む、生等が迢々たる雲山を隔てつゝも、尙その高風に欽する所以なり。弊邦言あり、颯風一過林に靜柯

なしと。白哲人手足の及ぶ處、余輩の安んずる能はざるを奈何、足下か赤心も終に彼等か爲に靜なるを得ざるなり。美國は華盛頓以來正義の爲に行動し、生等をして白哲人界又一個人道國あるを思はしめたり、今や圖らざりき人權を重する美國にして足下が正義の爲に獨立を得むとしつゝありし非律賓を買收し終らむとは。嗚呼彼等は其の祖先か自由を與へずむば死を與へよと絶叫しつゝ英軍に抗して血を流したるを忘れたるなり。知らず西班牙は何處より非律賓を他に賣却するの權利を得しや、知らず美國は何處より人民を牛羊の如くに賣買するの權利を得しや、余輩は竊に耶蘇教徒の唱ふる正義なるものが果して如何なるものなるやを疑ふものなり。本年一月九日美國元老院に於ける、貴島問題の討議に關して合衆國黨が吐露したる意見は、以て彼等の抱懷する處を、忖度するに足るべし。此日合衆黨の辨士はベヴェリツチにして其の演説の要旨は此の如くなりき。曰く、將來世界の得意先は亞細亞なり、されば我國の得意先も亦亞細亞ならざるべからず、即ち太平洋は將來世界商業の大道にして。太平洋を支配する國は、又世界商業の覇者たるべし。而して太平洋を支配するは、非律賓に如くはなし。今や此の寶島我手中に落つ、何者の愚ぞ此の寶島を失はんやと。これを換言すれば商業上の利益の爲めに。貴島二千萬の蒼生が有する處の權利をも自由をも顧みずと云ふに等し。華盛頓死して百年、墓木既に拱して殘骨亦將に一抔の黄土と化したるならんも、彼もし靈あらは、如何に其の子孫が邪道に墮落せしを悲むべき。天下交々利を征す、正義危からざらんと欲するも得ざるなり。弊邦の亞聖孟軻云へり、苟も義を後にして利を先にせば奪はざれば壓かざるべしと、嗚呼美國は奪はざれば壓かざる也。ベヴェリツチ又曰く、若しアギナルド等が、我國に於て彼に同

情を表する人士あり。新聞紙あるを知らざりしならば、戦争は既に霧散せしなると、又曰く若しアギナルドにして、我國に於て、而も我國の國會に於て彼と其の味方の辨護せらるゝを知らざりしならば。我公衆の演臺に於て、又其の新聞紙に於て、彼黨の征討軍に放てる彈丸は、恰も國父華盛頓が英軍に放ちしその如しと、論ずる者あるを知らざりしならば、反徒の騷擾は既に潰散鎮定せしならん。美國衰へたりと雖も亦正義の士あり、これ等正義の士が足下等に對し同情を表するを指し、合衆黨は彼等の國家に害ありとなす、これ宛も正道を捨てゝ利に走れと云ふに等し。澆季の世、人悉く利に走ると雖も、正義は全く過去の事實として葬られたるにあらず。然るにそは我等の利にあらず宜しくこれを唱導するを止めて以て、晃々たる黄金を抱けと云ふが如きに至りては。竊に彼等、殊に中流以上の彼等が如何に利益に走りて又他を顧みるに遑あらざるかを確証するに足るべし。斯の如くにして、足下の旗下にある仁人は、實に恐ぶ可からざる迫害を蒙りつゝあり。迫害尙恐ぶべし、されど彼等がその手を彼等の所謂異色人種に加ふるに當り、かくの如きを以て常道となすに至りては。實に恐ぶ可からざる也。生等今足下に對し同情の涙を揮うと共に、聊か弊邦の苦を告げざるを得ざる也。

足下は耶蘇教徒の傳道が如何に。弊邦に災をなせしかを知らざるべし、教徒が傳道を我國に改始せしよと此に五十余年。其の弊害の始めて顯れしは實に洪秀全が亂にあり、秀全始め耶蘇教徒と稱し、亂を廣東に起し、一擧して江南諸州を蹂躪し。都を金陵に定め殆ど我が祖宗の墳墓を危うせんことせしは、康熙乾隆の治漸く衰へたるに依るものなりと雖も、亦耶蘇教徒が大に之か爲に盡し、によ

るものなり、幸にして、曾國藩左宗棠等あり。櫛風沐雨漸く之を戡定するを得たりと雖も、意外に所謂教匪なるもの、弊害あるを認め、從て耶蘇教徒の國を危うするを知りぬ。若し余輩が倫敦橋上祖を顯し臂を露して立たば、彼等は呼ぶに風俗懷亂を以てし、囂々として、直に國外に放逐するが如きは想像するに難からざるべし。一夕の戲事猶且つ然るを得べし、然るに彼等西人は濫りに我國に進入し、我等が尤も重しとせる家族的制度を打破し、尤も我等が神聖なりとせる信仰を奪ひつゝあり。然りと雖も我等は與國に對して感情を傷ふを快とせざるが故に、可成的彼等の意を傷はざらんか爲めに、鬱勃たる感情を抑へつゝ茲に多くの歲月を経たりき。宣教師の唱ふる所を聞けば曰く、救はれざる人を救ふは、余輩が神に對して盡すべき責任なり。今や余輩は汝等が信仰を有せざるを見、これを救はむと欲するのみ。豈他あらむやと。咄何の言ぞ、彼等が余輩に信仰なしと云ふは、彼等が余輩を熟知せざるに出づるものなり。我等は主として儒教を味ひ、既に唐時代に於て回教も耶蘇教も拜火教も、凡て殆ど世界に行はれつゝありし宗教の眞髓を味ひたりき。而して我等が年所を経るの久しき宗教の進歩も亦從て甚しく、今や余輩の宗教なるものは、只生活上の哲學となりしに過ぎず。羅馬にあらば羅馬人のなす如くせよとは、西人が常に唱する金言なり、彼等若し此の金言に従ひ已れか欲せざる所を人に施さずんば事なくして止むべき也。然るに彼等の所謂宗教は其の本旨に就てさへ舌戰絶へざるものなるに、之を我等が堅固なる信仰中に齎して、此門に入らずむば天國に入る能はず。永劫天罰を受くべしなど、痴人の寢言を並べて余輩の信仰を破らんとし、家族的組織を打破せんとす。これ等は尙ほ堅忍すべしと雖も、所謂宣教師なるものが、無賴の徒を教内

に底保して其の曲を辨護し、其の信徒にして罪を侵す事あるときは、宣教師の辨護あり、外國使臣の抗爭あり、縣令府尹等止むを得ず曲を他に飯する比々として然り。此の如く神の子たるべき彼等は、却て人權を傷損し、正義を煙滅せしめんとす。これ實に余輩の忍び得る所ならんや。故を以て無賴の徒は相率て宣教師の下に集り、惡を善とし曲を直とし、以て自利を營む事尙ほ拙國の隣邦倭國の自稱志士等か、忠君愛國を旗幟として選舉干渉を行ひ、其の實官府の機密費に衣食せんとし、東洋の平和を口實として、外國に屈服し以て私利を成さんとせしに異ならざる也。加ふるに宣教師輩は弊邦の慣習思想を野蠻視して、到る處此を自家の信徒中に鼓吹し、官府を輕侮するの念を主せしめ、我か統治上に非常の影響を及ぼしつゝあり。これ豈に敬虔なる牧師の爲すべき所業ならんや。生等は直にこれを以て羅馬法王の意志なりとせず。されど弊邦に來るもの殆ど此の轍を出づるなきは、竊に生等の疑團を抱く所なり。

耶蘇敎布敎問題が、我帝國の根底を動かさんとするに當り、膠州灣事件起りて弊邦をして大迫害を受けしめざるを得ざる原因を作りぬ。これ元布敎に關係したるものにして、弊邦山東の司敎者アンツアイエルが宗教問題を變じて政治問題となしたるに起因するもの也。アンツアイエルは野心勃勃々として押ふる能はざる徒。嘗てピスマークより王候を以て遇せられ、深く其の知遇に感じ、終に彼が請を納れて、山東省の布敎權を擧げて德國看督の下に置くに至りぬ。而して不幸にして宣教師殺害事件起り、常識を以て律す可からざるウキルヘルムの強制に逢ひ、此に古今未曾有の突飛なる條約を訂結せざるを得ざるに至りぬ。由來列國多く我に對して責むべきを責む。これ元より理に於て

然り、されど屢々責むべからざるを責めたり。故を以て若し彼等の言を不當として退くれば、乃ち數萬の貔貅直隸の野を壓するを常とせり。弊邦倭と戰ひて敗るゝや、西人言をなして曰く、土耳其と支那とは東西の垂死國なり、宜しく世界の爲めに、是れを處分せざる可からずと、往々にしてニコラスが例に倣はんとするものあるに至り、引て德國の如く理を非に屈けても咎責するあるに至れり。既に宣教師を殺す、我れ元より責なしとせず、然れども其の理由のある所を考ふれば、我を責むるに先ち、まづ宣教師自身が何の爲めに無賴の徒を其の翼下に集め、何の爲めに地方官民の間を離間せんとせしかを責めざる可からず。我がこれを殺したる術策元より拙劣なりしを免れず。されどこれ寧ろ余輩の不幸にして禍失にはあらざる也。余輩は人權を他人の蹂躪に任ずるを欲せず。其の時に至る迄既に數十年、忍ぶべきを忍び、堪ふべきに堪へたり、而して今や公憤發して止むべからざるに及びこれを成す。罪ありと雖も寧ろ鄉黨の爲めに振ひたる田野慷慨の徒を憐まざるを得ざる也。然るに德の傲岸なる、自ら責むべきを責めずして、却て之を以て千載の好機となし、自國が東洋に根據地を有せざるを以て、此の瑣細なる事件、然もこれ彼等が信する神明より當然受くべき責罰たりしを知らず、却て余輩を責め、終に膠州灣を占領したるは隨分虫のよき話と云はざるを得ず、天下豈に斯の如き理あらんや。然も西人の多くはこれを以つて當然の事として疑はず。これ彼等の間に正義の滅びたるを證するものにして、ノアの洪水が遠からず來るべきを豫示するものにあらずや。聞を開らく一人の手よくなす事を得べし。されど積水滔々流れ去るに及んでは、一人のよく止め得る所にあらざるなり。足下よ德が指を膠州に下せしより、西人は如何なる事を以て弊邦に責むるも、

よく甘受する所となるべしと信ぜ、俄は終に何の理由もなく旅順口に占據せり。遼東一帯は我が祖宗皇陵のある處にして、一杯の土と雖も他邦人の吞噬を許すべからず。露のなせし處の如き我朝を根底より動かすものにして、彼等がかゝる暴慢の處置に出でしは、元より我朝の薄弱なるを知りしに基くものなりと雖も、亦彼等西人か耶蘇教以外の者を以て犬獸と同一視するによるにあらずや。昔者石晋か兵を夷狄に借りて、苟安の愚策を取りしより、後世その轍を蹈みて累を蒼生に及ぼし社稷を滅せしもの實に多かりき。弊邦倭と戦ひて大に敗るゝや、李中堂其の顧問たる德國人等の懸策を用ひ、三國の干涉を乞ひ、其の歸する所カシニ條約となり。祖宗墳墓の地に彼等をして跳梁を恣にせしむる機會を作りぬ。今や俄人の鐵路は甌越として興安を越え、遼河を渡る、東三省は將に其の主を變せんとしつゝあるなり。嗚呼これ石晋の愚策よりも拙劣を極めたるものにして、中堂の失計大なりと雖も、亦正に俄人跳梁の一端を知るに足るべし。

足下は、西人が吝嗇漢の遺言と稱せる諺を聞きしなるべし。曰く、兒よ金を儲けよ、正當に利し得べくんば正當に利せよ、兎に角儲けよと。是豈俄の對外政策を説明せしものにあらずや。彼は何の理由もなく各方面に戦を交へ常に其の吞噬を逞うしつゝあるは足下のよく知れる所なり。試に弊邦に就て之を言はん。ムラブビヨフは水路探險と稱し黒龍江を下り、河口に都を立てニコライスクと云ひ、終に黒龍江以北を割取したり。英佛相合して弊邦を攻むるや、イグナチーフ將軍は、之の講和に斡旋せし報酬として、我が朝に強請する所あり、終に沿海州數萬里を削りぬ。これ實に兎も角主義の運用を見るに足らずや。而して近く終に和尚山頭による、鵬翼滿州を包ますんば止まざる也。

夫れ責むべき事ありて責むるは道に於て盡すべき事にして、取るべきに取るは禮に於て爲すべき事なり。「一」と「二」は飽迄も「四」なり。ざるを俄人は「五」となさんとす。强者の權利は那邊まで主張するを得べきか。神の教を奉ずるものは那邊まで貪慾にして且つ殘忍なるべきか。余輩は常に與國の感情を害するの不利なるを思ひき。されど感情を害せずと云ふは、盡すべき道を盡し、履むべき禮を行ふより又他ある可からず。然るに今や強國の意志を迎合し、其の非を納れ、其の惡を聞かざる可からずんば、國の獨立何ぞ保持するを得ん。首を垂れ尾を俛る、余り幾許ぞ。嗚呼國としての價值果して何處にかある。吾人は獨立自由の國民として地球上より洗ひ去らるゝを欲せず、今に及んで反抗するなくんば、世人は我國を目して國をなすの價值なきものとなさん。此に於てか余輩の○○○○○○所以なり。人或は余輩の術策の正しからざるを責むるものあり。されど余輩は彼等をして正義の眼を開かしめん爲に、勸告し哀訴し議論せりと雖も、彼等は傲然として、尙吾人に吾人の欲せざる處をなせと強ひ、加之恣に人の邦國を割して各々其の勢力範圍と稱し。各自其の區域内に經營するを憚らず。余輩の一部は終に此等の事に堪ふる能はず、乃ち相計りて曰く、彼等の干渉を脱し、彼等をして正義の眼を開かしめんと欲せば、血を以て勸告するより外又道ある可からずと。此に○○○○に出でしなり。何れの國民も其の邦國の獨立を保持する權利を有す、余輩が斯の如き手段を以て獨立を保持するに至りしは實に余輩の不幸なり。手段は頗る拙なりと雖も、其の拙なるが爲に我等が盡すべき義務を盡す所以を失うたりと云ふ可からず。弊邦の學者曰へるあり、歐洲諸國に行はるゝ國際法なるものは、强者の權利は如何にして擴張せられ、弱者の權利は如何にして消滅

せしめられしかの例規の蒐集なりと。これある哉、方今の天下强者の權利の外一物なし、又嘆ずべからずや。余輩事を○○○末輩等忿怒の余、○○○○を擁殺するや、○○○○は例の音楽入りの演説をなし、其の○○○を奨勵して曰く、若し敵と接近することあらば、一人も容赦する勿れ、一人も捕慮となす勿れ、云々と。あゝこれ文明國を以て自ら標榜するものゝ口にすべき言ならんや。事を處する別に道なきにあらざるなり。

弊邦の大盜々跖言あり曰く、何に適くとして道なからむや、夫れ妄りに室中の藏を意ふは聖、入て先んずるは勇、出づるに後るゝは義、可否を知るは知、分つ事均しきは仁、五者備らずして大盜をなすもの天下未だこれあらずと。嗚呼西人の適く處、何に適くとして道なからんや。

今や西人野蠻的退化をなし、風習一變、強を恃み、弱を侵しつゝあり。故を以て彼等は常に弊邦が彼等の爲す處に倣ひ、野蠻的退化をなして、狼の如く奔馳せん事を恐る。嘗て英佛連合して燕京を攻むるや、英のウラスレー將軍その軍中にあり。爾來説をなして曰く、支那人は尤も偉大なる人種にして體力あり勇氣あり、且つ死を恐れず。然れども當今兵備全く廢し、只失敗者のみ兵籍に入りつゝあるも、若しビスマルク、ナポレオンあらば、二世にして世界の大國民たるべく、吾英將校これを率ひて訓練せば、一年にして世界の模範兵となさんと。此の言は智慮ある西人の多數が承認する處なり。されば彼等は弊邦が羊の如き態度を變じ、新興の倭國と連合して白人に抵抗せん事を恐れ、Yellow peril と稱して、稍もすれば東洋問題を變じて、人種問題たらしめんとす。然れども吾人は貴島人と共に、白人の盜賊的人道の壓制と、殺人的兵器の強迫を受けつゝあり。若し彼等の口吻を借

りて云はゞ、これ即ち White Peril にして、此の如くにして永續せば東洋人の怨恨は未來は必ず發して東方西漸となり、上帝が人類を譴責する鞭撻として彼等が恐れたりし、アツチラの侵畧を再せんのみ。

彼等は斯の如く余輩の邦土に進入し、青山白水到る處其の足跡を印し、其の根據を作らんとす。例へば俄人が東三省鐵路を布設するや、到る處停車場を舊來の市街に設くるを避け、必ず人家なき地を擇び、必ず俄羅斯的新市を設け、恣に俄名を附し、守備と號して哥索克を駐屯せしむ。蘆漢鐵路亦然り、余輩鐵路の利便を察せざるにあらず。されど國家の獨立を培しても布設すべく然かく重大なるものにあらざるを知る也。他の諸國も亦此の如く、余輩の國家を無視し、余輩の權利を蹂躪し、所謂文明の利器なるものを強ふ、余輩實に難有迷惑を感ぜざるを得ざる也。願くは余輩の全意を得て、余輩の國を改良せしめよ。これ實に余輩の願也。

足下よ、他人が足下の邸宅に進入し、その建築の便利ならざるを責め、足下の同意なくしてこれを改作したらば如何。これ實に足下の容忍し得る處にあらざる可し。而して余輩は現に此の境遇に陥りつゝある也。西人の言に曰く、馬を水邊に致すは一人のよくする所なり、されど、これに飲ましむるは十人と雖も能くする所にあらずと、同意なくしてこれを強ふ、一蹶を蒙りしは誰かこれを怪むものあらんや。彼等は内國に於て余輩を苦めて曰く、門戸を開放せよ、利益を分與せよと。ヲ一ブン、ドア可なり。利益の分與可なり。これ全地球を以て神が人類に寄與したるものとせば、斯の如きは其の結果として怪むを用ひざればなり。西人はかく余輩に迫りつゝも、各自の邦内に於て

は到る處吾邦人を虐待しつゝあり。これ元より同胞痴愚の致す所なるべし、されど英國に於ては炎天に於て必ず奔馳する馬匹に水囊を着けしむるにあらずや。愛禽獸に及びて我同胞に及ばざるは如何。天下豈にかゝる不道理あらんや。我等の政府は薄弱なるが故に敢てこれを云々するなしと雖も、云々する事なきが故に、然かざるものとせば、最も其心術の陋を憐まずんばあらず。余輩の種族は堅忍なるが故に、敢て此等の小難に屈撓せずと雖も、彼等が耶蘇の教として博愛を主眼としつゝも、かゝる矛盾の行をなして怪まざるを驚くものなり。若し孟軻の言を借りて言はゞ、獸を率て人を食ましむるものなり。砂漠中に起りたる宗教が如何に幼稚なりとも。豈にかゝる無道の教を含有する事あらんや。倭國は小なりと雖も、よく西人と雁行し敢て遜色なし、而して其の堅甲利兵は以て西人をして三舍を避けしむるに足る。今や野蠻的退化をなしつゝある西人は、相率てこれを自家の手足となさんとし、媚を呈しつゝあるにも拘らず、尙ほ其の同胞は加奈多に於て濠州に於て人種的迫害を蒙りつゝあり。身洋装をなし、口駄舌を弄しつゝある倭人にして尙然り。歸する所西人の人種的迫害を受けるは、只に吾人と足下等とのみならざる也。換言すれば彼等は世界を以て單に白人の世界とし、他を以て獸類と同一視す。これ一面は彼等の愚に起因するものにして、寧ろ憐むべしと雖も、他が之を云々せざるを以て、直に速解して真理となすが如き、愚と雖も恕す可からざる也。聞く、之が斗斛を爲りて之を量れば、則ち斗斛を并せて之を竊み、之が權衡を爲りて之を稱れば、則ち權衡を并せて之を竊み、之が印璽を爲りて之を信にすれば、則ち印璽を并せて之を竊み、之が仁義を爲りて以て之を矯むれば、則ち仁義を并せて之を竊む。彼の釣を竊むものは誅せられ、國を

竊むものは諸候とあると。白人等は所謂仁義を竊みて斗斛權衡印璽の利を併するものなり。余輩偶彼等の暴虐を責めて起てば、彼等は指して人道を無みするものとす。而かも白晝人の國を竊むは人道を以て責めらるゝ事なし、かくの如きは即ち白人の人道のみ。今や天下の人正義を以て白人を咎責するを不利ありとし、白人の感情を傷ひ、列國の爲めに野蠻視せらるべしとし、自から標榜して文明の學をなせりと、唱へ、高襟にして香水馥郁、乃ち嬉々として曰く、あゝこれ世界の風儀なり、文明の威容なりと。何ぞ知らんその所謂文明なるものは、仁義を竊み、聖知を竊み、斗斛權衡印璽の利を竊みたるものにして、所謂羊頭を掲げて狗肉を沾るの類なる事を。生民あつてより以來未だ嘗て此の如き鼻下長あらざる也。

倭人由來慧なりと雖も、感情に強くして意志薄弱なるを免れず。彼等今や先驅して燕京に入る、盡せし所大なりと云ふべし。余嘗て倭の東京に遊び、所謂江戸ッ兒なるものを見る。彼等が火災に當り、驚口なるものを提げ、火中に奮進する、其の勇驚くに堪へたり。されど火止むや、煙草を喫し酒を飲み、陶然として夢郷に入る。かくの如き凡て倭人の慣習なり。今や彼大に奏功して正に夢郷に入らんとする時なり。鵜はよく水に泳げども、其の胃は常に漁夫の爲に餓ゆと、危まざらんと欲するも得ざる也。

弊邦と倭と、僅に白人外に國を建つるもの他は殆ど寥々として論ずるに足らず。而して南溟足下あり、白人と人權を爭ひ大に正義の爲めに氣焰を吐く、これ余輩が竊に快とする所なり。嗚呼方今の天下正義なし、只利あるのみ、此の濁浪中に立ちて、之を維持せんとす、固ひ哉足下の任や。され

② 2. 外山は、横断断面で、その西端の山頂に、

種々の植物の生長に必要とする光の強弱を測定する。

前報の通り、金銀の相場は、漸く、ゆるゆる、平復する所がある。其の如何に相場も、さうな

—

[illegible]

焯
 焯
 焯

變水機